

[カルタップ水溶剤]

農林水産省登録 第18950号

性 状: 青緑色水溶性細粒

毒 性: 劇 物

危 険 物: ー

有効年限: 4 年

包 装: 100g × 60、500g × 20

パダン® S G 水 溶 剤

有効成分: カルタップ塩酸塩 (PRTR・1種) …75.0%



「住友化学農業ガイド」の見方: i-農カサイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。
本剤の最新情報: こちらのQRコードを読み取ると i-農カサイトに掲載されている本剤の最新情報をご覧いただけます。

[適用と使用方法]

| 作物名 | 適用害虫名 | 希釈倍数 | 107-ℓ当り 使用液量 | 使用時期* | 総使用回数* | 使用方法 |
|-----------------|--|------------|--------------------------------|-------|-----------------------------|---------------|
| 稲 | ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ | 1500倍 | 60~ 150ℓ | 21日前 | 本剤: 6回 カルタップ: 6回 (#1) | 散布 |
| | イネハモグリバエ | 1500~3000倍 | ー | 浸種前 | 本剤: 1回 カルタップ: 6回 (#1) | 24時間 種もみ浸漬 |
| イネシンガレセンチュウ | | | | | | |
| キャベツ | コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ナメクジ類 | 1500倍 | 100~ 300ℓ | 14日前 | 4回 | 散布 |
| はくさい | ナメクジ類 | | | 7日前 | 3回 | |
| だいこん | コナガ アオムシ アブラムシ類 カブラハバチ キスジノミハムシ ハモグリバエ類 | | | | | |
| なばな | コナガ アブラムシ類 | | | | | |
| さやえんどう 実えんどう | ウラナミシジミ ナモグリバエ | 1500~3000倍 | 前日 | | | |
| ブロッコリー | コナガ | 1500倍 | 200~ 700ℓ | 7日前 | 4回 | |
| ほうれんそう | ミナミキイロアザミウマ アシグロハモグリバエ シロオビノメイガ | | | 2回 | | |
| チンゲンサイ | ハモグリバエ類 コナガ | | | 3回 | | |
| レタス | ナメクジ類 ハモグリバエ類 | | | 14日前 | 2回 | |
| 非結球レタス | アブラムシ類 | | | | | |
| かき | チャノキイロアザミウマ カキホソガ イラガ カキノキマダラメイガ カキノヘタムシガ | 1500~3000倍 | 45日前 | 4回 | | |
| くり | モモノゴマダラノメイガ ネスジキノカワガ | 1500倍 | 裂果前 | 3回 | | |
| びわ わ (葉) | ナシヒメシンクイ | | 春芽伸 長初期 まで 但し 90日前 | 4回 | | |

| 作物名 | 適用害虫名 | 希釈倍数 | 10アール当り 使用液量 | 使用時期* | 総使用回数* | 使用方法 |
|---------------------|---------------------------------------|-------------|-----------------|--------------|---------------------------|---------------|
| 大粒種ぶどう | チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ スカシバ類 | 1500倍 | 200~ 700ℓ | 21日前 | 5回 | 散布 |
| キウイフルーツ | キイロマイコガ キウイヒメヨコバイ | | | 30日前 | 3回 | |
| 茶 | チャノホソガ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ | | 200~ 400ℓ | 摘採 10日前 | 1回 | |
| しそ | アザミウマ類 | 3000倍 | 100~ 300ℓ | 7日前 | 2回 | |
| とうもろこし 飼料用とうもろこし | アワノメイガ | 1000倍 | 21日前 | | | |
| はとむぎ | | 60~ 150ℓ | 14日前 | | | |
| ばれいしょ | ジャガイモガ若齢幼虫 | 1500倍 | 100~ 300ℓ | 7日前 | 本剤:6回 カルタップ:7回 (#3) | |
| ホップ | アズキノメイガ | | 200~ 700ℓ | | | |
| しょうが | アズキノメイガ アワノメイガ | | 100~ 300ℓ | 5回 | | |
| ガーベラ | マメハモグリバエ | | | — | 4回 | |
| シクラメン | ミカンキイロアザミウマ | | | 発生 初期 | 5回 | |
| 樹木類 | シャクトリムシ類 | | 1500~3000倍 | 200~ 700ℓ | — | 3回 |
| いぐさ | イグサシンムシガ | | 1500倍 | 100~ 300ℓ | 7日前 | 2回 |
| ふき | アザミウマ類 アブラムシ類 フキノメイガ | 120日前 | | | 本剤:2回 カルタップ:4回 (#2) | |
| ふき (ふきのとう) | 30日前 | 3回 | | | | |
| くわい | ハスモンヨトウ | 前日 | | | 1回 | |
| さやいんげん | マメハモグリバエ | 7日前 | | | | |
| はつかだいこん | コナガ | — | | | 植付前 | 30分間種 いも浸漬 |
| さといも | ネグサレセンチュウ | 300倍 | | | — | 1回 |
| たまねぎ | アザミウマ類 | 1500倍 | 100~ 300ℓ | 前日 | 3回 | 散布 |
| ねぎ | | | | 3日前 | 2回 | |

#1: 浸種前は1回、浸種後から直播では種時又は移植時までの処理は1回

#2: 水溶剤の処理は2回、粒剤の処理は2回

#3: 種いも紛衣は1回、散布は6回

●ペースト肥料と混和して側条施用する場合

| 作物名 | 適用害虫名 | 10アール当り 使用量 | 使用時期* | 総使用回数* | 使用方法 |
|-----|-------------------|----------------|-------|---------------------------|-------------------------------------|
| 稲 | イネドロオイムシ | 100~200g | 移植時 | 本剤:1回 カルタップ:6回 (#1) | ペースト肥料に溶かし 側条施肥田 植機で施用 する。 |
| | イネミズゾウムシ | 200g | | | |
| | コブノメイガ ニカメイチュウ | | | | |

#1: 浸種前は1回、浸種後から直播では種時又は移植時までの処理は1回

効果・薬害等の注意

- 本剤を使用した場合には、チオシクロラム又はベンスルスタップを含む剤は使用しない。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- イネシガラセンチュウ防除のため種もみ消毒をする場合、催芽種では薬害のおそれがあるので催芽前に処理する。
- ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合する。
- あぶらな科野菜に使用する場合、夏季高温時の苗や軟弱な苗に対しては薬害を生ずるおそれがあるのでこのような苗には使用しない。
- なす、たばこには薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布する。
- かきに使用する場合は、果実の着色直前以降は薬害を生ずるおそれがあるので使用しない。
- かき、大粒種ぶどうには樹勢の弱い場合には薬害を生ずるおそれがあるので使用しない。
- ほうれんそうに使用する場合、高温時の散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさける。
- ガーベラには品種（パープルレイン、マンボなど）によっては薬害を生ずるおそれがあるのであらかじめ薬害のないことを確かめたうえで使用する。
- 本剤を側条施用する場合は次の注意を守る。
 - 同一の害虫を防除対象とする育苗箱施用薬剤と併用すると薬害発生のおそれがあるのでさける。
 - 使用した機械を洗浄する際は、洗浄水が水路等に流入しないように注意する。
 - アルカリ性ペースト肥料との混和は有効成分が分解するおそれがあるので、混和可能が確認されているペースト肥料以外との混和はさける。
- ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生を見たらただちに散布する。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残のないようにいねいに行う。
- びわのナシヒメシンクイの防除に当っては、新梢、収穫跡、芽かき跡、剪定跡等に食入した幼虫を対象に散布する。
- キウイフルーツに使用する場合、新葉に薬害（黄変）が生ずることがあるので注意する。
- シクラメンに使用する場合は、あらかじめシクラメンに散布してみて薬害がでないことを確かめた上で使用する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意



- 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用をさける。
- 医薬用外劇物。取扱いは十分注意。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤による中毒に対しては、動物実験でL-システイン製剤の投与が有効であると報告されている。
- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 粉末は皮ふに対して強い刺激性があるので、散布液調製時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮ふに付着しないように注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布等の作業の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用する。

作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをします。

- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
 - 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。
 - 水産動植物（甲殻類・ドジョウ）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池等周辺での使用はさける。
 - 散布後は水管理に注意する。
 - 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理する。
 - 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
 - 直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。
- 12 頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－C も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

- ネライストキシン系の殺虫剤（カルタップ剤）で、特に食害性害虫に高い効果を示します。
- 特異な殺虫作用：パダンには特に経口殺虫作用が強く、ごく少量の摂食で虫はすみやかに麻痺し、死に至ります。稲のコブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、茶のチャノホソガなどのような作物の茎葉を食害する害虫に特にすぐれた効果を示します。
また、パダンの殺虫効果のあらわれ方は特異的で、虫の動きがにぶくなって作物を食害できなくなり、死んで行きます。
- 散布適期の幅が広い：パダンは散布適期の幅が広く、安定した防除効果を示します。
- 抵抗性害虫にも有効：パダンは有機りん剤やカーバメート剤などとは殺虫作用が全く異なっていますので、他剤では効きにくくなってきた害虫にも高い効果を発揮します。
- ペースト肥料との混和による側条施用処理
パダンSG水溶剤のペースト肥料混和側条施用は、田植時にパダンSG水溶剤をペースト肥料に混和し、専用の側条施肥田植機で施用する省力的な処理方法です。
○ 田植、施肥、害虫防除の3つの作業を同時に行うことができ、コスト低減につながります。
○ 薬剤を水に溶かさずペースト肥料に直接混和して使用することも出来、省力的です。
- コナガにすぐれた効果：パダンはコナガに対し、強い殺卵作用、殺成虫作用、幼虫に対する長い残効性があり、また高温時の効果の持続性にもすぐれています。
コナガ防除はなるべく早期から実施することが肝要であり、有機リン剤、合成ピレスロイド剤、B T剤、I G R剤等作用性の異なる薬剤とのローテーション防除で使います。
- 溶けやすい顆粒タイプ：水に非常に溶けやすい薬剤です。
- 粉立ちが少なく使いやすい：顆粒剤のため、開封時、薬液調製時の粉立ちが少なくなります。